百年の大計に躍動する市浦村

十周年に寄せる若人の希望と意見

個性ある市浦村に

相内
大谷紘子（二五）公務員

これまでの発展をみてきた市浦村に、この村を受け次いで立つ若者の育成を望みます。

市浦村も早や十才を迎えました。これまでに進む事ができたことを本当にうれしく思います。これから先は、この村を受け次いでゆく若者の育成に注ぐ力量で将来の市浦村は決まるといっても過言ではないと思います。

幸い、村には高等学校も設立されてあります。新しい村を担う若者には、新しい教育の場が必要ではないでしょうか。今まである古き時代の良きものと、新しさをミックスした個性ある市浦村をつくり出すことが魅力ある新しい村づくりにもつながるのではないでしょうか。日、一日と発展を続けている社会の中で、もはや他人の真似ごとだけをしている時代は、すぎたのではないでしょうかもちろん、高等学校だけが教育の場でもなければ若者育成のすべてだと言うのではありません。しかし私は、かっての人々がご苦労されて設立されたであろう高等学校は積極的に利用し、村の発展の為に大いに役立せて欲しいと思います。

経済事情で義務教育のみで終らなければならない者や、家事の手不足から進学できずに居る若者を、このまゝ見すごしてはならないと思うのです。

目標を見つける事のできないでいる若者にも向学心の燃えたゝせるよう高等学校に造り上げてもらいたいのです。

今では、村の目標も定まったことと思います。それが水産業に重点がおかれてあるなら、水産高校とさせるべき、指導、援助をしていかなくてはならないだろうし又、その目標が酪農にあるなら、それに向って前進していかなければならないと思います。

この事の達成によっては若者の離農、離村も減少されてゆくと思います。そればかりではなしに将来の村全体が出稼ぎ生活から解放されてゆくものと思います。

このまゝでは、若者にとって生れ故郷というだけで何の魅力もない田舎村にすぎないのです。

新しい村づくりには、まず新しい魅力を兼ねそなえてゆかなくてはならないと思います。そのために、高等学校の設備充実と、公共の誤楽施設の早期解決を望んでやみません。

十周年に思うこと

相内
三上光治（二七）農業

いつか青年団の会合で「なぜ離農して他産業へ就職するのを好むのか」ということで、日常自分たちの考えていることをざっくばらんに話し合う機会をもったことがある。

その内容を列記する。

一、労働力が過重な上に時間に制限がない。

二、自分の持つ創意力をこらすことが少なく、主に親の指図どおりにしている。

三、自分で働いた現金を手にすることがなく、小遣い銭まで自由にすることが出来ない。

四、農家にはだれも好んで嫁に来てくれない。

五、農家には計画性がない。

以上のような理由であるが、条件的に好ましくないということであるように思われる。このことは、一歩掘り下げて考えて見た場合深刻な問題であり、私たち農民に与えた大きな課題でもありましょう。こうしたことが、さらに進展するならば、農業の後継者が少なくなっている農村は、活気がなくなり弱体化してしまうだろう。

最近の社会状勢から、中小企業の倒産兼農家の増大、出稼ぎ者の激増などの問題が今後さらに長期化するものならば、益々農業と他産業との所得差が生じ私たち農民は、文化的な生活ができなくなり、現在のじいちゃん、ばあちゃん、かあちゃんの三ちゃん農業と云われる言い方から斜陽産業へと姿を変えないとも限らない。

幸い、市浦村にも「市浦農協」が誕生し、その運営も軌道にのり、着々とすすめられているようですが、市浦村十周年を期し、今後の発展を祈るとともに、われわれ働く青年同志も互いの立場をよく理解し合いながら、すべての共通感を育て、当村産業へ結びつくよう、教育文化活動に必要な施設の拡充とともにゆたかな暮しをきずくため、経済問題を研究しながら、より以上の魅力ある農村にしたいと考えます。

道路の整備促進

十三
亀田正義（二七）教員

市浦村が発足してから十年。人間でいうならば満十歳であり、少年市浦とでもいうべきでありましょう。これが青年市浦になるころには、雄々しく成長するよう、夢を託し、次の事をのべてみたい。

一、市浦村発展のポイントは、道路の整備にある。

私だけではない。誰しも考えている事だが、市浦村の道路は日本でも有数の悪路であり、いかに津軽地方の発展を遅らせてきたかは周囲を見ればわかる通りである。

どうしてこれほどまでに道路整備が遅れているのか原因は色々ありましょう。しかし、何といっても一番考えさせられるのは、地域住民の道路に対する取り組みの姿勢にあったのではないだろうか。つまり、住民は、高度に発展していく文化、産業吸収に追いつくための動脈としての道路だという考えをもった人は少なく、馬が通れれば…車が通れれば式で満足して来たきらいがあるし、又、町村関係者も道路には金がかゝるから…と言うことで間に合せ工事や、一町村だけではどうにもならぬと諦めに似た気持ちで来た消極さもあったでありましょう。そこで素人の私が言いたいのは、道路というのは少なくとも二町村以上を結んでいるのですし、しかも県道であるのですから、小泊、市浦、中里、金木の町村が、連合組織を作って、県へ強力にその整備を要請することが当面の急務だと思う。勿論、木造、車力、市浦も同じように、一同に団結し、道路整備促進会議でも結成し早急に具体策を考えること。市浦村の発展は津軽半島の発展はまずそれからではないだろうか。

二、次に観光事業をもっと開発すること。

小泊、高山、鯵ヶ沢等、西海岸観光ルートの確立では、市浦村が一番遅れているでしょう。

十三にだって大分観光客が来村しているが、その受け入れ、案内の体制が殆んど出来ていない。どうだろう。中島に橋をかけ、考古館や、休憩所、釣場、ボート、駐車場などを全部有料で開設する。これを、市浦村観光課の事業としてやったら案外発展するかも知れないと私は思っている。

三、養殖産業を考えること。

十三湖もその通り、又、十三の前潟ももう少し調査して、養殖に利用すること。うなぎや金魚の飼育をやったらどうか。又、海には、のりはもとより、わかめの養殖を本気でとり組んでみたらどうだろう。秋田県などでは成功している例もあるわけだから、こう言う適地養殖事業を積極的に考えていくことがこれからの市浦村の発展ポイントになるのではないかと考えている。

観光資源の開発を…

脇元
中畑和子（二五）主婦

合併して十年、そして十週年記念に村民誰一人としてお祝の気持でいっぱいの事と存じます。この間、幾多の苦難を打開致し、今日の市浦村が私達と共に歩んで参ったのであります。ここに市浦村を振り返って、又、他の市町村に見比べ記念致す本日を機会に、今後の村建設と発展の為、個人の意を表して見たいと思います。私一主婦の立場から少範囲ではありますが一言明日から新規一転して再出発する村当局に対し、第一に望みたい事は教育設備投資であります。学力向上が叫ばれている今日、今の教育予算ではどうかと思われます。そこで各学校に従来の予算プラス10%程加えて人造りに撤して載き度いのです。第二番目に火葬場の建設を実現して載き度いのです。尚火葬場はブロック毎に、相内地区一ヶ所、脇元地区一ヶ所と、昔乍らの火葬場は日本でも当村だけじゃないかとも聞いております。又、其の他実行してほしい事が数々有りますが早急に少額の予算で明日にでも実現可能なる二点を切に希望致します。

次に市浦村の今後の進むべき方向としては、次の二点、十三湖を美田にする事と、裏山、村有林と国有林の利用をし、酪農を主とした放牧、北海道一帯にしろ日夜テレビ、新聞、ラジオ等で知る所であります。

この二点が実現致せば今の市浦村がもっともっと裕福な村として生れ変わる事と信じて居ります。そうする事に依って、全国的に大問題の出稼ぎ問題が又当村でもすでに対策協議会がどうのこうのと耳に致しておりますが、その問題も自然に解決される事でしょう。

次に市浦発展を促進させるポイントと致しましては第一に観光開発、第二に産業工場を促進してより多くの村民が働ける場を与えて下さる様、そして現在の人口を時期的（三月…十二月）迄の変動から確保し、村外へ流れる消費を村内に留める事にこそ村の発展が約束されますし、村民が良く商人が良く益々輝かしい発展の市浦村が誕生し、郷土歴史の一ページとして愛される事でしょう。

十年そして十年

脇元
俵谷作之進（三五）農業

市浦村が十週年をむかえた。

おめでたいことである。記念のお祝いごともあるそうな。しかしただ手ばなしで十週年十週年とおめでたがってばかりもいられないような気がするのだ。

長いと云えば長かったような短いと云えば短かったような十年間である。十年前と今。市浦村は果して十年の年月を送ったといえるだろうか、進歩したのだろうか。生れたばかりの赤ん坊でも十才になれば自分を律する分別はつく位の年の頃だが、

新農村事業は途中半ば牛は一向に多くならないどころか少なくなる傾向すらある。せっかく手に入れた十三湖干拓の増反地は末だに萱の野、開拓パイロット地区は赤土の禿山化している。派閥抗争は一向におさまらない。悪い面ばかりが多く目につく現状だ。農協は合併したものの身に覚えのないような赤字に悩まされ通しだ。

この上に農業構造改善事業が実施されるのだそうだが、手をあわせたいような気持になるのは私ばかりだろうか。農業の構造改善しなければならないのは自明だけれども、それの先決として農民の精神構造の改善を撤底的に事業化しなければ、いたずらに傷口を大きくすることになりかねない。第二次十三湖干拓にしても現干拓地における営農から計画的に行うのでなければ、折角の宝物を他人にさらわれて指をくわいていなければならないことになるかも知れない。

しかしいづれにせよ市浦村が今後生きて行くためには、どうしてもやり遂げなければならないのが前記の二事業なのである。これをなくしては、これの成功となくしては市浦村の発展はあり得ないと極言してもいい位なのだから、村当局もだいぶ自分の考えた構想、計画が良いものだから、立派なものだからとお高くとまり、おれについてこいとばかりに独走するのは禁物である。あくまでも村民の生活のためであることを、村民一人一人に納得させて進めてほしいものだ。たとえ事業開始や終了が多少遅れたにしても充分の準備をすべきである。

とにもかくにも十年はすぎた。過ぎた事にだけこだわってはいられない。これからの十年はより充実した十年にしなければならない百姓も安閑としてはいられない。考え方を近代化、やり方を近代化し、よりよい生活を確立しなければならないのである。

社会教育の充実

脇元
桑野邦夫（二三）公務員

市浦村が十周年を迎えたことを心からお慶び申し上げます。

私は過去七年間青年団活動をして参りましたが、団活動を私なりに反省し、今後の進むべき道をのべたいと思います。

当時、私はクラス四人で青年団に入団しましたが、高校へ進学できなかった私たちには知織を得、又研修の出来る唯一の場所でした。ここ二、三年、団を運営する立場になりましたが最近、各方面から青年活動は全国的に低調になってきたと指摘されますが、一団員の立場としてそれをすなおに認めざるを得ません。

しかし、このままでよいと考えを持っている人はおそらく一人もいないし、これは各会合で常に話題の焦点となる問題で皆とジックリ考えてみるのだが、なかなかよい考えが出そうもありません。

団活動の低調は、団員個々の団意織がうすれてきていることはいうまでもないが、第一の原因は、最近急激にふえてきた出稼ぎによるものと考えられるし、これまで団活動の根処となる公共施設がなかったことも、その原因であったと思われます。幸い私たちの地区には年内に公民館が建設されることになり、私たち青年にとって待望の夢が実現したといえるでしょう。

しかし、公民館ができたからといって、今すぐ活発な運動が展開されるとは考えられないが、村当局にも今後更に社会教育を進めてくれることを熱望するとともに、私たちとしても出稼問題、その他の諸問題とジックリとりくんで村発展のため、青年活動を盛んにして行きたいと思います。

タバコは村内で買いましょう

村内でタバコを買うと村に消費税が入ってきます。

一年間（昭和三十九年度）に二百四万の収入です。ぜひ村内で。

十周年記念小、中学校作文

市浦村発展のために

相小六年 小笠原智子

市浦村発展のために、まず交通がさかんでなければなりません。交通をさかんにする第一歩は、はばの広い整つたほそう道路にし、鉄道を通したらいいと思います。

道路には、小さい人が車にひかれないように、緑のおばさんもいたら家族の人も安心して働けます。鉄道を通すとよその市町村の人々もきてにぎわい、そのうちに、市浦と小泊もいつしよになつて新しい町が出来ると思います。そうしたらゆうえん地もでき、わたしたち子どもが楽しく遊べるようになったらどんなにいいだろう。

いつか家庭科の時間にお料理をつくってみんなで昼ごはんをたべたときは、とてもおいしく感じました。料理がじょうずなのではなくて、みんなで一生懸命につくり、楽しく、話しあって食べたからおいしかつたのでしょう。だから学校で給食をやったら、ぎようぎもよくなるし、おいしくたべられるからいい。

またわたしたちの学校にはプールがありません。毎年夏になると沼へ泳ぎに行きます。六年生でも泳げない人は何人かいます。わたしもその一人です。沼まで歩いていって、つくと泳いでる人を見ているばかりです。だから歩いていかなくてもいいように学校にプールをつくってくれたら、体育の時間にでも練習をしたら泳げない人がいなくなると思う。子供のことだけでなく親のことも考えて、村に大きな広いおふろを作ったらどうでしょう。せっせと働いて、つかれたあと、のんびりと気持ちのよい風呂にはいって、ぐっすりとねむったら、さつぱりした気分で、翌日もまた仕事を一生懸命にできると思います。

相小にも給食を

相小六年 佐藤真智子

わたしたちの学校はまだ給食をやっていない。だから学校からはなれた所にある家はとても困る。母も給食をすればいいといっていた。

いつだつたか学校へくるとちゆうで、役場の人が「ごはんだけもつてきて、おかずは学校で」という話をしていた。みんなに話したらパンはきらいだからごはんがいいといってとても喜んでいた。でもなかなか給食をやってくれない。やれば離れている人もたすかるだろうにと思うとくやしくなる。すでに太田と脇元でもやっているのに、なぜ相内だけやらないのかわからない。やればみんなといっしよに食べられるのになあ。みんなと食べられたのは家庭科の料理の実習の時だけだつた。

もし給食をやれば毎日楽しく勉強できる。給食当番も楽しいだろう。早く給食をやってくれたらいいなあ。早く給食をやってくれることをおねがいしたい。

未来への夢ははてしない

相中三年 小笠原英樹

ブブー、きようもトラックは忙しそうに道を走る。その背には大きく「市浦村」と書かれてある。私が五つぐらいの時に相内村、十三村脇元村が合併して市浦村となつたのだが、その頃までは、車は「相内」と書いて走り廻つていたのだろうか。木を製材するには人力ののこぎりで、田畑を耕すにはみな、くわ一本でやつていたのか。

むろんその頃はまだ、この村に自動車は一台あつたかないかはわからないが、今は数十台もある。そして村の開発のためにじやりを運び、あせを流している。田畑には耕運機の音が、山にはチエンソーの音がこだまする。そして市浦の中心相内の十三潟を見わたす小高い丘に、黄色くペンキをぬつた政治の本拠、市浦村役場が立つている。

ある人は、市浦村はなにも進歩してないと言うかもしれない。しかし、時の流れはこの村をも進歩させたのだ。病院には専用の車がおかれて、患者のもとにかけつける。消防自動車は火事現場へただちに出勤。人々はその赤いほつぺたを光らせながら、きようも野良仕事にかかる。小さかつた松の苗は、今はもうこんなに大きくなつて人々を風から守り、稲を育て、生活を安定させてくれる。これはなんという市浦村の進歩社会の進歩であろうか。また、数年後には市浦村統合中学校が、三十年をへた松を倒して建てられるという。そして、その市浦中学校に集つた生徒達は各種の学科で訓練されて行く、 していろいろの知識を身につけたその若者達が帰つてきたとき、はたしてこの村はどれだけ大きなものになるだろうか。未来への夢ははてしない。

しかし、とかく現実と理想は、犬と猫のようなものである。人の心には、みな悪い所があつた。自分の任務を怠ったのは、自分の胸に聞けばわかるだろう。しかし、これからの市浦村はあの火事になつたとき、みんながあわてて火を消しに行く時のように、みんなで本気に手をとりあって行こう。さもなければ、実に市浦村という村は今後十年とたたないうちにとり残されてしまうだろう。みんなで本気に手をとり合つて行こう。青年達よ。未来への夢ははてしない。

合併してからの村

十三小六年 中島鶴代

私たちの村十三は、むかし、とてもさかえた港町でしたが北郡と合併して十周年、今はあれはてたまずしい村です。今の村は交通があまり発達していなくちかくの町へ行くにもでこぼこ道をゆれながら約二時間。でこぼこ道を通るたびにいつになったらでこぼこ道がなくなるのであろうと思い早く、ほそう道路になったらなあ。と思います。

中学校を卒業して上の学校に進学する人々は町まで出て行かなければなりません。それればかりではなく町の人たちに比べて費用も多くかかるし、私たちの生活とはくらし方もちがうなどの理由で村から町へ転校する家や中学生になると、町の学校へいれる家も、出てきます。

でもだんだん学校の設備もととのって少しずつりっぱになってきましたが、まだまだ町の学校とはくらべものになりません。

私たちも上の学校へ行く時のことを考えるともっと交通が発達して大きくりっぱな学校が建ったらなあといつも思い、町の人たちがうらやましくなってきます。十三はさびた、まずしい村なので中学校を卒業した大部分の生徒は出かせぎに行ってしまいます。

だから残された父母は、畑しごとや漁業をしてくらしをたてています。まわりは湖にかこまれているので漁業は発達しても不思議ではないのですが、十三の卒業した生徒の大部分は、集団就職に出かけてしまうのでちっとも、発達していません。

それに残された少ない人たちで発達していない所で漁業をするのですから発達している所で漁業をしている人たちに比べて設備もととのっていない、まずしい漁業ですから、とても苦労していると思います。その人たちのためにも、早く町がひらけ、出かせぎに、行く人が少なくなるようにして漁業に農業に新しい考えを加わえて父母たちにもあまり苦労をさせないようにして、うんと長生きしてもらいたいと思います。

漁業と農業だけでなく、商業や工業などもうんと発達してほしいと思います。

それには、まず村が発達して交通が便利になり、出かせぎに行く人が、少なくなってほしいと思います。

合併して十周年たちいろいろかわつてきたが町とはまだまだちがいます。これから年月がたつにつれて新しい町づくりを少しずつ実現させていただきたいと思います。

市浦村をよりよい村に

十三小六年 中島いく子

私の住む十三も、早いもので相内、脇元などと合併してから、もう十周年をむかえる。私は今年十三才だから、市浦村は私が三才の時誕生したことになる。

一年…二年合併した年から数えていくと十三は変わつただろうか。「十年もたったんだから、ずいぶん変わっただろう。」と思う人も、少なくないと思う…そう、本当に十三は変わった。

しかし、それは表だけで中味はほとんど変わらない人々の考え方も文化も…。

長い十年間に、公民館と学校の校庭整理だけ…。橋はおんぼろ、学校もおんぼろ道路は悪い。ぐちを言ったらきりがない。「相内は、あんなにいいのにな。」と思う時もしばしばある。しかし、けっしてひねくれているのではない。

歩くとミシミシ音のする学校のろうか。いい遊び場もない。

市浦村合併十周年記念にこんなことを言って悪いかも知れぬが、「市浦村は何をしている。政治が悪いのだ。」と、声をあげたくなる時もあるのだ。予算は足りない。とてもやってはいけぬような所も時々見かけることがある。

でも政治の力だけにたよってはいられない。「私達の力でよくしなければいけない。」と言うこともある。

あまり文化は発達していないが、私は十三が好きだ。ふる里ってこともあるが、十三の自然の美しさだ。あまり文化が発達していない方がいいのかも知れぬ。静かで、心が安まるもの…。

しかし、おとなは一生懸命だ。中には、自分のことしか考えない人もいるが…。

私には今は「このままの昔のままの市浦村にしておく」という考え。市浦村は、「市浦村の文化を発達させてよりよいものにしよう」という考え。私は、どちらでもあればすきだと思います。

市浦村の人々が、村をよくするために、みんなで協力し合ってがんばればきつとこの市浦村に、平和と幸福がおとずれるだろう。私もおとなに負けぬようがんばつて、市浦村をよくしたいものだ。

市浦村になって

十三中三年 工藤真幸

十年前相内、脇元、十三の三ケ村が合併し、市浦村と村名をつけたそうだが、市浦とは四浦といって深浦、鯵ケ沢、十三、青森の四つの港のことだと父から聞かされた。

それに十三港は昔一番よく栄えていたとか、これにちなんだ村名はほんとうに良い名だと思う。さて合併十周年の記念日を迎え村の発展を心から祈りたいものです。市浦村は昔、安東氏の居城であった福島城があったそうで歴史上から見ても津軽地帯の重要なところであったにちがいない。

今では、十三も脇元も海での漁もなく、相内も中山山脈からとれるひば材も減って経済的にはあまり恵まれない、貧乏な村だが、西と北を結ぶ十三橋によって、交通量も多くなり、観光にもめぐまれているし原野もあるので酪農によって村の発展を祈りたいものです。

尚合併十周年を期して十三湖干拓によって農地をふやし農業を中心に沿岸漁業やしじみ貝の増産を考えてやってもらいたいと思います。

われわれは、十年の生活をふりかえって見ると共に将来に目を向けて、村民がみんな幸わせな生活が出来るよう願わずにはいられません。若い僕達もがんばり、みんなの幸わせのために努力したいと思う。

市浦村合併十周年に思う

十三中三年 奈良典昭

「十年ひと昔」と、人々はよくいう。そういえば、十三も西郡十三村から市浦村に合併して、はや、十周年を迎えた。

この十年間、今ふりかえってみると、あっという間に過ぎ去ってしまったようであるが、十三としても、また、市浦としても、成長したことがたくさんあったことだろうと思う。特に、昭和三十四年十一月に、十三橋が完成したそれまで、相内・脇元に行くには、渡し舟にたよらなければならなかった。その渡し舟もまた、定期的なものだったので、非常に不便だった。それが、十三橋が完成したおかげで、この交通難が一挙に解決した。

それから、十三の七不思議の一つとして、かぞえられてきた「田がなくても米がたくさん」。このことばをはねのけるようにして、近年、明神沼・唐川にと、水田が出来るようになったまことに喜ばしいことだと思う。

また、十三湖の全面干拓なども計画されているそうである。現在、しじみ貝および魚が、おもうようにとれなくなった十三湖では、この計画が村人たちの、大きな気持となっているようである。

今、僕たちが望むことといえば、十三橋をもっと広いコンクリートのりっぱな橋にしてもらいたいこと。それから…これは、この前先生から聞いたことだが、市浦と車力を比べると、こっちの方が非常に、道路が悪いということだった。もっと道路の整備をしてもらいたいように思った。

僕たちの十三も鎌倉時代のころには、日本の七大港の一つにかぞえられるほど栄えたそうである。今は、どこにもそんなおもかげは見られないが、もう一度、十三・市浦のはん栄のため村民あげて努力してもらいたいものだと思う。

私達の村

脇小六年 和島絹子

私の生まれた磯松は、日本海にそってあるいなかなのです。私は時々こんないなかからぬけでて、都会に住めたらなあと考えることがたびたびあります。又ある時は、この磯松ほどよい所が世界中にあるだろうかと思います。空気がすみきっているので気分はさっぱりするし、海や山だってすぐそばにあります。山菜だって時期になればたくさんとれる。でも私達の村にくらべれば、都会は何倍も交通が発達しているし、いろいろと私達の村にくらべればつごうのよいことが多くあります。

私達の村は、うちのたてかたからいっても昔っぽい感じでいっぱいだと思います。五年生の時、受持だった浜田先生は、いろいろと私達の村のことを考えてくれて、社会科の時間になると、脇元や磯松はこれからはどうすれば、今よりも住みよくなるだろうか、などと言っては、よく意見をのべあったものです。でもじっさいにこれからやるんだぞという気持ちで考えるとなかなかできそうにもないことばかりです。脇元、磯松だけの特産物でも、できればなあとおもわずにはいられません。海があってもさかなは、少ししかとれないし、田や畑だってわずかしかないのです。ここには仕事がないのでたいてえのうちでは、きらいなそして、いやな出かせぎをして、一家をどうにかもたせているというぐあいが多く見られます。でも私のうちでは、だれも出かせぎしなくてもよいのだから、それだけ幸福だと思います。

でもこの辺に、何かの工業でもおこれば、どこのうちの人でも、きらいな出かせぎをやる必要はないとおもっています。そうすればたいていのうちでは、まいばんお父さんやお母さんなど、家族みんなで夕はんをたべることができると思います。そうなれば今まではあまりおいしくなかった、ごはんでもみんなでたべれば、きっとおいしくなると思います。工場の休みの日には、家族みんなそろってどっかへあそびに行くことだってできるとおもいます。私は、この脇元か磯松のどちらかに温泉でもわきでれば、いいなあと考えます。その温泉熱を利用して、野菜、果物などの早づくりをやればいいと思います。温泉にはいれば、体が清潔になればそれだけ健康になると思います。

そうなれば村だって発展するし、いままでは、出かせぎをやっていた人は、やらなくてもよくなるのです私は、何か大きい産業をおこして、すみよいくらしにしたいと願い、市浦村合併十周年を祝して、今後ますます発展することを心から望みます。

私たちの村

脇小六年　葛西丈輝

私たちの村では、おもに農業や漁業をやっています。それで、農業は、米作りと野菜作りをしていますが、たいていの家は、自分の家でたべる分だけしかとれません。だから、農業をやっている家では、お金がはいらないので、でかせぎや村の営林署にいってお金をとっています。だから、でかせぎにいった家では、家族ぜんぶそろって、楽しくくらすのはできません。たとえば、ぼくの家にすると家にいないのは　姉と兄です。姉は、お金をとっているのではありません。とられるほうなのです。だからお金をとるのは、兄と父です。兄は、船にのったはてらき、父は、村の営林署にいっています。おかあさんとは、しにわかれたので、おばあさんが、家のことはみんなやらなければならないので、ときには、病気になるときもあります。こんなつらいことをしているのは、ぼくの家だけではありません。それから、漁業のほうは、村の人口の約三分の一ぐらいでそこでは、たいてい小さないそぶねをもっています。それで、あみをかけたり、春の終りにはさざえをとって、売っています。そのお金で、生活をしている家もあります。だから、これからは、もっと大きな船をもち、おきにでかけていって多く魚をとって、もっとゆたかな生活ができると思っています。脇元十三　相内が合併して、市浦村となり、もう十年にもなりました。市浦村の人達が豊かな生活をすることができるように、協力し合い努力していきたいと思います。

私たちの村

太田小六年　青山純久

ぼくたちの村が市浦村になってからもう十年になりました。十年といえばぼくたちがまだなにもしらない子どものころです、それまではいろいろな苦労があったことと思いますがそれをのりこえて今日まで発展してきたのです。

今の村長さんは柏谷秀一です、この名前を見てりっぱな人だろうなと思いました。

そのうちに太田の村の山でブルトーザーで木などをたおしてかいたくを始めたのが今のパイロットです。ぼくは始めパイロットと聞いて飛行場でもつくるのかなと思いました。

それからかわったことというと山を切り開いたことでしょう。笹やぶのあんな所に道路が出来るのかなと思っているうちに今年でとうとう完成してしまいました。その間ローラでかためたりしていきましたが自動車が走っているうちにひどい道路になってしまいました、そこでまた砕石やすなをいっぱい入れました、それでも雨がふるとまた悪くなってしまいます。そこで又すなを入れました、そして石も入れました。それから今度は大分よくなりました、この坂をこしらえるのにはずいぶん苦ろうしたことと思います。今ではかがみの生徒はよろこんで毎日通学しています。

ぼくたちは図画の時間パイロットに登って写生しました。するとかがみの坂道はすなでコンクリートのようにすらりとして平らにきれいに見えました。そこを車がゆうゆうと登って行きました。以前はスリップしてなかなか登れなかったのに今では軽々と登って行きます、とうとうやったんだなあというよろこびの気持がわいてきます。

パイロットから村を眺めると太田の村が全部見えます、ただかがみが見えないのがざんねんです。ずうっと見ているうちに太田の村はずいぶん道路がせまく曲がりくねったりしている、それで悪いんだなあと思います。今度は太田の道路も直してほしいなあと思います。太田の道路は大がたトラックがやっと一台通れないくらいせまく大変不便です。しかし、じこは一度もありませんでした。それだけみんなが気をつけているのでしょう。しかしやっぱり道路は広くまっすぐであったらいいなあと思っています。自転車で走っても苦ろうする、自動車でくる人もつい太田を遠ざけてしまうからです。

ぼくたちの学校は市浦村が出来る三、四年前に出きました。始めは教室が三つしかなかったのが又二つたして今では教室が五つになりました。学校は小さくても明るい学校だとぼくは思っています。

ぼくは今後の市浦村は悪い所をどんどん直して、カハエなどいないようにつとめればもっと生活がよくなるだろうと考えます。それには村民全部で協力してもっと新しい市浦村が出来あがるまでがんばっていきたいものだと思います。

市浦村十周年

脇中三年　成田雅樹

僕は、市浦村について父から次のようなことを聞きました。合併する前は、三村とも県下で最も小さい村にかぞえられてそのころの脇元は、北津軽郡脇元村とよび人口は、一七六〇人主として半農半漁、十三は、西津軽郡十三村とよび人口は、一四六七人で主として漁業、相内は、北津軽郡相内村とよび人口は、二五三一人で主として農業をやってきました。この三村を合せて市浦村とよぶようになったのは、昭和三十年三月三十一日で合併した理由は二ッあります。

その第一は、自然的社会的見地からと第二は、財政の確立となっていました。十年間に三村の協力によっていろいろなことをやってきました。

例を上げれば、グラウンドの整備、護岸工事のテトラポットそれに、これから立つ公民館、その他もっとあると思いますが、脇元だけでもこれだけあります。

反対に、少々不便なことの一ッは、お医者さんがいつもいたらなあということと以前隣にあった東北電力散宿所が相内に統合になり冬期の吹雪などによる停電の時は困ることがあります。

又防犯燈をもっと多くつけて、いつも明るい住みよい部落であったらということなどです。合併の目的であった村の財政は、立派に確立したときいています。しかしこれからやらなければならない仕事もいっぱいあります。

地域産業の開発、道路整備、統合中学校、どれも全村民の協力とお金を必要とします。そしてどれも目的を立ててがんばれば実現できると思います。合併十周年をお祝いすると共に今後十年の計画もたてなければならない大事な年です。村民の一人一人が希望をもって目的達成のためにがんばる年にしましょう。

「三村合併十周年おめでとう」

市浦村合併十周年

脇中三年　斎藤知保

市浦村と呼ばれるようになった頃、つまり十年前はまだ僕達が幼かったので、当時の模様は、何一つとして記憶に残っていない。母に聞いたら、「お父さんは合併の時の委員をしたので

鉄びんを貰った人だから、お父さんに聞いた方がよい」といった。どの鉄びんだろうと思って見たら、三つの中の中位の大きさの鉄びんに、贈、市浦村誕生記念と書いてあった。今まで使っていた鉄びんだが、気をつけて見たことがなかったのだ。

晩、父にどうして市浦村になったのかと聞いた。父はちよっと考えていたが、「そうだ、あれは昭和三十年の三月だったから、お前は小学校に入る二年も前だろう。

それまでは、脇元村、相内村、十三村と小さい村ばかりだったので、大きい仕事も出来ないのに、やはり村長も助役も収入役もなければならないし、ことにみんなそのように不経済だったので、大きい力のある村にしようということで相談したのだが、どうしても意見が合わないでいた時、十三がどうしても入れてくれといって来た。そして小泊が合併しないといったので、相内、脇元、十三の三村だけで三十年三月三十一日から、合併することになったのだよ。二月の終り頃だったろう。いよいよ最後に村の名を何とよぼうということで、色々な名の中から「市浦村」と、委員全員賛成し合併が決定した時、どうなるだろうと聞きに来ていた村の人々が、ワアッとさけんで手をたたき、ただちに酒もりして祝ったものだった。中学校統合もその時から考えていたことだから、もう統合してもよいのだがなあ、と話してくれた。

僕は父の話をきいて、十三も脇元もずいぶん小さな村だったろうなと思った。

それから中学校も一つになっていたら、どんなすばらしい中学校になっていただろうか。中体連の試合などとても強い中学校が出来ていたろうなあと思った。

地域の産業開発、出稼ぎ問題解決には村をあげて取り組んでいるようですが、時間のかかることは確かです。私達中学生一人一人が実力を身につけ、この問題解決に参加努力しなければならない時期が必ずやってきます。よりよい学習環境で学力を高め、有能な村民そして社会人となるためにも、統合中学校実現をお願いいたします。そのために十年前三ヶ村が合併にふみきったときの努力と協力が発揮される、意義深い年であることを祈り、合併十周年を祝福いたします。

市浦村における脇元

脇中三年　葛西久子

市浦村が合併してから、今年で十年目にあたる—これは私が最近始めて耳にした言葉です。それまで気がつかずにいたのは、私の自分達の村に対する関心がうすく、なんとなしに過して来た生活に対する、反省ともなるわけです。

合併した結果、私達の生活がどう変化したか？この事については私の頭の中に十年も前の記憶はないし、政治の事には余り知識がないのでわかりませんから、〃今後、この市浦村が、又私の住んでいる脇元がどの様になってほしいか〃などの事を、合併十周年記念の年に当り、書いてみたいと思います。

まず市浦村の第一問題としては、出稼ぎ対策があげられると思います。特に脇元では海があっても魚がいない。生活の為やむをえなく、他の県に出て行く。その間、子供達はどんなに淋しい気持で父、又は兄姉の帰りを待っている事でしょう！

この問題を解決する為には、何か出稼ぎをしなくても生活出来る様な、事業をしなければならないと思います。本村でもこの事業開発に、幾年間も努力してきたようですが、出稼ぎや県外就職は、年々多くなってきています。

この様な状態の中で、最近私が好ましく思うのは、脇元で養鶏の仕事がさかんになってきている事です。まだまだ牛の飼育、干拓の土地の事など色々聞いておりますが、これも問題解決の良い手段ではないでしょうか。皆の努力のおかげで、この小さな村から色々な事業がおこり、出稼ぎなどをなくす事が出来たら—それはどんなにすばらしい事でしょう。

今後も理想的な良い村をつくり、市浦村発展の為に村あげての協力と努力を続けてほしいと思います。

第二に私は脇元に生れた人間として、脇元の発展を心から願うのです。その私が気にかかった事は、脇元から色々な公の機関が相内の方に、集まってしまわないかという事でした。折戸の様に何もない、みじめな状態におかれる事はやはり淋しい事ですし、そうあってほしくないと思います。しかし今度、五百万円以上の予算で近代的な脇元公民館の建つ事を聞いて、私の心配がとりのぞかれたようで、大変うれしく感じました。

合併した一つ一つの部落が、それぞれの特色をもちながらのびて行く事は市浦村全体の発展となるのです。今までの事に無関心であった私達に、市浦村合併十周年にあたる今年〃色々と政治への関心を深めさせた事は、十分意義深いものとなりました。

明春に卒業をひかえている私達は、市浦村の発展と脇元の為にも、よく学び、努力して行く覚悟です。

市浦村合併十周年に思う

脇中三年　葛西久芳

「明るい政治を」とよく叫ばれるこの頃、僕達の市浦はおだやかな空気の中で伸びつつあるように思います。合併してから今年で十年とのこと。僕達の小さい時なので合併前のことは全々知らない。たまに父や母達の話題の中にちよっと聞いたりすることもあるけれど……

七月十五日は十周年記念式典が行なわれるそうで、村全体の喜びでおめでたいことだと思います。今年はまた公民館も出来るようで一つ一つ良くなって変ってゆく村の姿を見たり聞いたりするのはまた僕達にとっても嬉しいことです。でも僕達の在学中に学校給食の出来なかったことが少し残念に思います。小学校のように一日も早く給食設備の完成する日を次の生徒達のためにも期待しています。

政治のことはあまりわかりませんけれど、とにかくテレビのニュースで聞いたりするような悪いことがこの村だけにはない様にと願っています。

小さい時から波の音を聞き、美しい景色の中で大きくなった僕達は卒業してどこへ行っても明るく伸びる村政と美しい自然の姿とを思い出して、ふるさととしての市浦を偲びたいと思います。

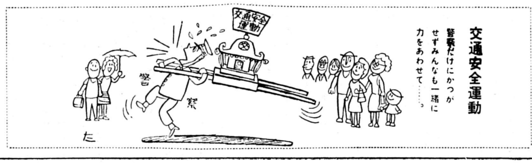
この特集号に掲載された作文は、小学校六年と中学校三年のみなさんが書いたものですがこれから一ヵ月おきに発行される普通のときの広報にも小、中学生の作文をのせたいと思っております。力作があったらお寄せ下さい。（広報係）

⊙⊙⊙⊙⊙⊙ 編集あとがき ⊙⊙⊙⊙⊙⊙

〃光陰矢の如く、歳月は流れる水の如し〃という言葉は、先人ののこした名言である。

市浦村がここの声をあげてから十年流れる水の如しという形容からすれば十年の歳月はまたたく間に過ぎ去った感を受けるが、先に記した〃名言〃は、再び到来することのない時間の尊さを論すものであり、その意味からすれば、苦節力行の十年であったかも知れない。

その十年をふりかえり、そしてこれからの市浦村の進むべき方向を見いだすため、広報〃しうら〃は、合併十周年記念特集号を発行し、みなさんのお手もとにさしあげることにしました。発行に際し、原稿をお寄せ下さった多くの方々や作文を書いて下さった小、中学生のみなさんに心から感謝いたします。（葛西）



住民登録の届け出をしましょう

次のようなときは14日以内にかならず住民登録の届け出をしなければなりません

★引越しをしてきたとき

★村内において住所をかえたとき

★世帯主がかわつたとき

★世帯を分離(分家)したとき